

2022 年度 第 1 回 現代文化人類学会（旧早稲田文化人類学会）定例研究会

発表者：藤原江美子（早稲田大学人間総合研究センター 招聘研究員）

日時：2022 年 4 月 25 日（月）18 時 15 分～20 時 15 分

場所：Zoom によるオンライン開催

* どなたでもご参加いただけます。ただし、オンライン開催のため、事前申込が必要です。

4 月 22 日（金）までに下記の Google フォームを通じて申し込みください。4 月 23 日以降、参加申込をされた方のみに、Zoom の URL をお送りします。

<https://forms.gle/yGQYVRS1R1XXWdQN6>

タイトル：

ボルネオの土地開発とコミュニティのリーダーシップ—インドネシア東カリマンタン州ムダン人社会の事例から—

要旨：

本報告では奪取的な土地買収 (land-grabbing) をともなう大規模なアブラヤシ農園開発が進むインドネシアの東カリマンタン州を対象に、先住民社会がコミュニティ内外においてどのような対応をとっているのかをその社会構造において見られた動態から明らかにする。とりわけ、ボルネオ人類学研究で論じられてきた「中央ボルネオの人々」として括られるムダン人の身分階層社会を対象とし、コミュニティ・リーダーと追従者であるその他の住民たちとの間で発揮されるリーダーシップの所在に着目する。

1) 調査地におけるリーダーのコミュニティ内外の対応、2) それによる住民たちの対応として開発利益をめぐる葛藤、3) 新たなリーダーを求めて生じた世襲的選出と直接選挙という事例を通じて、能力主義にもとづく日常的実践と階層原理との相反する社会規範のはざまで、支配—追従間の双方からのリーダーシップが発揮されることにより軋轢の解決策を模索していた実態を述べる。

これらから、開発に直面した身分階層社会の対応を明らかにするには、リーダーの資質に着目するだけでなく、このように共同体として発揮されるリーダーシップについても検討する余地があることを示す。最後に、相反する社会規範のはざまでムダン人社会の階層原理が貫かれ共同体の崩壊が回避されている状況について、緩衝装置としての役割をなす政治制度の可能性を示唆して締め括る。

お問い合わせ：

現代文化人類学会定例研究会ワーキンググループ

箕曲在弘

minoo [a] waseda.jp

* [a]を@に変えて送信してください。